

令和4（2022）年度 みよし市障がい者自立支援協議会第3回全体会 次第

日時：令和5（2023）年3月24日（金）

午前10時から正午まで

場所：おかよし交流センター ホール

第1 あいさつ

第2 協議事項

1 令和4（2022）年度のみよし市障がい者自立支援協議会について

（1）運営会議の事業報告、意見交換

人材育成検討チームの事業報告、意見交換

（2）暮らしの場検討チーム事業報告、意見交換

（3）地域生活支援拠点検討チーム事業報告、意見交換

（4）児童部会の事業報告、意見交換

（5）就労支援部会の事業報告、意見交換

（6）精神保健福祉部会の事業報告、意見交換

（7）医療的ケアさぽーと部会の事業報告、意見交換

2 地域生活支援拠点の整備について

第3 その他（各機関からの連絡事項など）

みよし市障がい者自立支援協議会 全体会 参加者

構成員の分類	所属先	職名	氏名
市内障がい者相談支援事業所	わらび	理事長	熊谷 かの子
//	しおみの丘	管理者	松平 幸彦
//	みよし市社会福祉協議会	次長	谷口 勇一
市内障がい福祉事業所	泰山寮	寮長	近藤 高史
//	特定非営利活動法人いきもの語り	管理者	水井 貴子
//	一般社団法人みよしはたらく協議会	代表理事	鶴田 清
//	しずく	管理者	清原 裕隆
市内障がい当事者団体	みよし市身体障害者福祉協議会	会長	前澤 晏
//	みよし市手をつなぐ親の会	会長	岸野 佳江
//	みよし市精神障がい者家族会	会長	畠中 菊代
就労・雇用の関係機関	豊田公共職業安定所	所長	山下 保
//	西三河北部障害者就業・生活支援センター	室長	西村 多恵
保育・教育・療育の関係機関	豊田市こども発達センター	地域療育相談室 室長	神谷 真巳
//	愛知県立三好特別支援学校	進路指導主事	井上 亘
//	豊田市立豊田特別支援学校	高等部主事	大須賀 唯哲
保健・医療の関係機関	みよし市民病院	副総看護師長 地域連携・医療 相談室 副室長	尾崎 真代
行政機関	愛知県豊田加茂福祉相談センター	児童育成課 主事	大河内 由美子
//	愛知県衣浦東部保健所	課長補佐	中根 恵美子
//	みよし市教育委員会	指導主事	菅田 健
相談支援地域アドバイザー	むもん生活支援センター	センター長	阪田 征彦
みよし市障がい者自立支援協議会専門部会部会長	児童部会	部会長兼事務局	堤 智香
//	就労支援部会	部会長	山口 雅之
//	精神保健福祉部会	部会長	兼重 隆
//	医療的ケアさぽーと部会	部会長兼事務局	川北 小有里

事務局	職名	氏名	部会等事務局	職名	氏名
みよし市役所 福祉部	次長兼福祉課長	岡田 珠見	人材育成検討チーム	事務局	秋田 雅治
	福祉課副主幹	橋本 伸代	暮らしの場検討チーム	事務局	深田 明男
	福祉課主査	児島 裕子	地域生活支援拠点検討チーム	事務局	三輪 智之
	福祉課主事	立石 恵莉	就労支援部会	事務局	横山 裕規
				事務局	中村 美香
			精神保健福祉部会	事務局	小西 浩文

令和4(2022)年度
みよし市障がい者自立支援協議会
第3回全体会

2 令和4（2022）年度のみよし市障がい者自立支援協議会について

（1-1）運営会議の事業報告、意見交換

- ア 運営目的
- イ 具体的な取組状況
- ウ 会議での協議内容
- エ 今後の方向性

（1-2）人材育成検討チームの事業報告、意見交換

- ア 運営目的
- イ 具体的な取組状況
- ウ 今後の方向性

（1-3）暮らしの場検討チームの事業報告、意見交換

- ア 運営目的
- イ 具体的な取組状況
- ウ 今後の方向性

（1-4）地域生活支援拠点検討チームの事業報告、意見交換

- ア 運営目的
- イ 具体的な取組状況
- ウ 今後の方向性

（2）児童部会の事業報告、意見交換

- ア 運営目的
- イ 具体的な取組状況
- ウ 部会での協議内容
- エ 研修協力について
- オ 今後の方向性

（3）就労支援部会の事業報告、意見交換

- ア 運営目的
- イ 具体的な取組状況
- ウ 部会での協議内容
- エ 今後の方向性

(4) 精神保健福祉部会の事業報告、意見交換

- ア 運営目的
- イ 具体的な取組状況
- ウ 部会での協議内容
- エ 今後の方向性

(5) 医療的ケアさぽーと部会の事業報告、意見交換

- ア 運営目的
- イ 具体的な取組状況
- ウ 部会での協議内容
- エ 今後の方向性

(1-1) 運営会議の事業報告、意見交換

ア 運営目的

市の障がい者福祉に関する課題のうち、行政で取り組むこと、協議会で取り組むことを整理し、協議会の方針を決める。

イ 具体的な取組状況

①障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題と、解決に向けた取組の方針が、運営会議構成員内で共有されている。

運営会議において、基幹的相談支援センター担当から、相談支援事業等（個別支援会議や事例検討会等）で確認できた地域課題の報告を受けた。詳細は別紙資料（資料 No.1）のとおり。

②各専門部会及び検討チームが滞りなく運営されている。

運営会議において、各専門部会及び検討チームの取組状況を確認した。詳細は下部ウのとおり。

③全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。

3月運営会議において、整理・共有を行った。詳細は下部ウのとおり。

ウ 会議での協議内容

時期	会議	内容
11月21日	第2回 全体会	<ul style="list-style-type: none">令和4（2022）年度の各部会・チームの取組内容について意見聴取。上半期地域課題報告書について協議。
12月1日	12月 運営会議	<ul style="list-style-type: none">全体会のふりかえり11月の各部会・チームの動向確認。11月の地域課題について報告・共有。協議会主催のシンポジウムの進捗状況について共有。
1月5日	1月 運営会議	<ul style="list-style-type: none">全体会のふりかえり（生活介護について）12月の各部会・チームの動向確認。12月の地域課題について報告・共有。

		<ul style="list-style-type: none"> ・協議会主催のシンポジウムの進捗状況について共有。
2月2日	2月 運営会議	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の各部会・チームの動向確認。 ・各部会・チームの年間事業報告書について協議。 ・下半期地域課題報告書、1月の地域課題について報告・共有。 ・協議会主催のシンポジウムの進捗状況について共有。
3月2日	3月 運営会議	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回全体会における協議内容の確認。 ・2月の各部会・チームの動向確認。 ・各部会・チームの年間事業報告書について協議。 ・下半期地域課題報告書、2月の地域課題について報告・共有。 ・運営会議（2部制）の評価。

エ 今後の方向性

- ・運営会議で地域課題の具体的な取組の協議ができるよう、協議方法を検討する。
- ・各専門部会等が年間計画表に沿って滞りなく運営ができるよう、必要に応じて運営についての協議や助言を行う。
- ・全体会の限られた時間の中で活発な意見交換ができるよう、協議方法を検討する。

(1-2) 人材育成検討チームの事業報告、意見交換

ア 運営目的

障がい福祉従事者がソーシャルワークを意識して、業務に取り組めるようになる。

イ 具体的な取組内容

①障がい福祉従事者がソーシャルワークの視点を意識できるようになる。

③地域生活支援拠点を意識した具体的な取り組みを行っていく。

市内障がい福祉従事者を対象とした中堅研修（6～15年）を企画・開催した。

【取組内容】

時期	取組	内容
2月7日	中堅研修	市内障がい福祉事業所の6～15年目の職員を対象に泰山寮で開催した。参加者は10名。「地域共生」をテーマに講師を招いた。昨年度はオンライン開催だったが、今回は集合型で行った。

②障がい福祉従事者同士のネットワークを強化する。

障がい福祉事業所がつながり、交流しながら学び合う場として、オンライン懇親会を企画・開催する。

市内管理者クラスの職員がみよしの課題を共有し、課題解決に向けて協働することを目的に、管理者向け研修を企画した。

【取組内容】

時期	取組	内容
3月16日	オンライン懇親会	継続して事業所職員同士の横のつながりを作っていくため、テーマを設け、座談会形式で気軽に交流・意見交換を行う機会として開催した。7月と10月に開催し、第3回は3月に「コロナ後を見据えて」をテーマに開催。
	管理者向け研修	管理者クラスの職員がみよしの課題を共有し、課題解決に向けて協働することを目的に企画。開催に向けてアンケートを実施した。人材育成をテーマに研修を企画するが、対面式にこだわったこともあり、開催までには至らなかった。

ウ 今後の方向性

- ・コロナ禍で手段として広がったオンラインも含めて、今後はオンライン、対面それぞれの良さを生かし、より効果の高い方法で開催する。
- ・地域課題報告書から強度行動障がい児者に対する専門的な人材育成・確保が課題として挙がってきている。地域生活支援拠点の整備に向けても専門的な人材の確保・育成が必要なため、行動障がいに対する理解を深める研修を企画する。

(1-3) 暮らしの場検討チームの事業報告、意見交換

ア 運営目的

障がい者（児）が、地域で生活できる仕組み（緊急時対応、住まいの場の確保等）を構築する。

イ 具体的な取組状況

①緊急時の受け入れ体制を整備する。

緊急時の定義に基づいた支援を実働させていくため、豊田みよしケアネットの患者登録に向け対象者への説明・登録を開始する。

【取組内容】

時期	取組	内容
12月	患者登録に向けた説明	実働に向け、相談支援専門員に緊急時対応を必要とする対象者の患者登録に関する説明を行う。
2月20日	第3回WG	・実働に向けた取組の状況報告及び新たな受け入れ先について。 ・来年度の方向性について。

②障がい者（児）が地域で生活できる仕組み（住まいの場確保等）について協議する場ができるよう、関係機関で共通認識を持つ。

協議する場の設置に向けて月1回検討チーム（地域アドバイザー、しおみの丘、社会福祉協議会、わらび）で勉強会開催に向け協議する。

【取組内容】

時期	取組	内容
12月20日	第3回 居住支援勉強会	居住支援に対する共通認識が持てるよう取り組む。

ウ 今後の方向性

- ・緊急時対応フローに基づいた支援を実働させていくと同時に新たな受け入れ先の確保に向けて取り組む。
- ・障がい者（児）が地域で生活できる仕組み（GHを含めた住まいの場の確保等）について協議し、課題を明確にして共有する。

(1-4) 地域生活支援拠点検討チームの事業報告、意見交換

ア 運営目的

障がいの重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための5つの機能を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障がい児(者)の生活を地域全体で支える体制を構築する。

イ 具体的な取組状況

- ①「みよし市版地域生活支援拠点事業・地域診断表」に基づき、居住支援のための5つの機能のレベルアップを図る。

【取組内容】

時期	取組	内容
12月13日	協議体参加	おかよし地域・きたよし地域協議体に参加
12月19日	協議体参加	なかよし地域協議体に参加
12月22日	地域共生ワークショップ③	「多問題事例(ケース)をわが街でどう支える」 講師：國信綾希氏(長久手市地域共生推進監)/登壇者：加藤恵氏(社会福祉法人半田市社会福祉協議会) 参加者24名
2月14日	地域共生ワークショップ④	「私(たち)から始める地域共生」の夢のプラン 講師：國信綾希氏(長久手市地域共生推進監) 参加者26名

- ②地域診断表を活用し、みよし市の居住支援の課題を共有する。

【取組内容】

時期	取組	内容
12月23日	取りまとめ	全体会構成員からの地域診断表回答を取りまとめる
1月～2月	分析	地域診断表の回答を分析する
3月24日	第3回全体会	地域診断表の分析結果を用いて、全体会構成員でディスカッションを行う

ウ 今後の方向性

- ・多機関が協働し、地域共生ワークショップで出された企画が実現するような取組を行う。
- ・地域診断表に基づく現在の到達地点と今後の課題を運営会議や各部会等で共有し、今後の課題に対してどのように対応していくかを検討する。

(2) 児童部会の事業報告、意見交換

ア 運営目的

障がい児の早期発見とライフステージに応じた地域での生活を支援するための協議及び事業を行うことにより、障がい児の福祉、保健、保育及び教育を実施する関係機関の職員及び家族の療育意識を高め、障がい児福祉の向上を図る。

イ 具体的な取組状況

①乳幼児健診以後の支援体制を見直す。

【課題と方向性】

課題	方向性
1.ふたば利用児数の減少	健診フローの検証をプロジェクトチームで行うため、進捗状況の確認を行う。 (担当：健康推進課)
2.就労している家庭への支援	乳児保育を担当している保育士への調査を実施し、実態把握を行う。
3.2歳児の療育の充実	児童発達支援運営委員会で具体的に定義していくため、動向の確認を行う。 (担当：子育て支援課)

【取組内容】

	時期	内容等
1について		次年度、データ収集と事例検討を継続実施
2について	今年度中	児童部会にてアンケート内容の確認 (資料 No.2-1)

②つながりシートの効果を確認し、様式等の改定につなげていく。

【取組内容】

- ・保護者向けアンケートを実施する（11月頃配布、12月中に回収）。
(資料 No.2-2)
- ・シート修正箇所、その他課題の確認について確認。
- ・周知方法の検討。

【(参考) 令和4(2022)年度のシートに関するスケジュール】

時期	6月	7~8月頃	令和5年1月	2月	3月
内容	就学 相談会	個別の教育 支援計画作成	シート完成	学校に提出 教員が 園を訪問	要録提出 情報交換
	シートの周知、啓発、配布				

【(参考) 様式の改定等に向けたプラン】



③保護者支援の課題と解決に向けた取組の方針が、部会構成員内で共有されている。

【取組内容】

	内容等
1月31日	田原市保護者支援について意見交換 田原市障害者総合相談センター：神谷順子氏

ウ 部会での協議内容

時期	会議	内容
3月14日	第3回児童部会	<ul style="list-style-type: none"> 令和4(2022)年度の取組について報告 令和5(2023)年度の取組について協議

エ 研修協力について

児童部会として、関係職種の資質向上のために研修を企画し、豊田市こども発達センター等に協力していただいている。今年度の子育て支援課主催の研修は、以下のとおり。

時期	目的・内容
2月14日	1園対象の研修（出前研修） 【対象園】城山保育園 【内容】事例検討 ※今年度は1園のみに絞って実施

オ 今後の方向性

- 就労している家庭への支援として、保育士へのアンケート調査を基に課題を探り、その課題の解決方法を検討する。
- 保護者支援に関して、各機関が考える「語る場」の動向の確認を行う。

(3) 就労支援部会の事業報告、意見交換

ア 運営目的

はたらく意思を持っている障がい者並びに障がい者を雇用している企業及び障がい者を雇用しようとしている企業を支援するために、必要なシステムや事業等を協議・検討し、具体的に実施する。

イ 具体的な取組状況

①職場体験先を増やす

- a. 企業に事務部門体験実習の実施状況を調査し課題をまとめる。
- b. 職場体験冊子改定の内容を検討するとともに活用方法を検討する。

【取組内容 a】

時期	取組	内容
12月～ 1月	企業へアンケートを実施・分析	職場体験に関するアンケート調査を令和4（2022）年度市内中学校特別支援学級及び三好特別支援学校からの職場体験受け入れ企業、令和4（2022）年度第1回障がい者雇用支援セミナーの参加企業を合わせ、16社から回答を得られた。受け入れ企業は、事務職の受け入れをしている企業もあったが、比較的規模の大きな企業であった。また、企業にとってメリットが少なく、社会貢献を職場体験受け入れの成果に挙げる企業が多かった。

【取組内容 b】

時期	取組	内容
11月～ 1月	職場体験冊子の構成及び掲載についての意見収集	各中学校特別支援学級及び三好特別支援学校、掲載企業を訪問し、冊子について意見と合意をもらった。
2月15日	第3回 就労支援部会	部会構成員から意見をもらい、最終構成を行った。

②企業が積極的に障がい者雇用を考えるようになる。

第2回障がい者雇用支援セミナーを1月31日に実施。（実施主体は就労支援事業）

【取組内容】

時期	取組	内容
1月31日	第2回障がい者雇用支援セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマは、「脳卒中・脳挫傷による後遺症の方々の雇用継続について」（企業同士で悩みを共有）。 ・申し込み企業数3社（3名）、うち当日参加数3社（3名）。
2月16日、22日	セミナーアンケートについて意見交換	参加企業3社からアンケートを回収。今回の振り返りとアンケートや来年度のセミナーについて意見交換を行った。

③就労定着について現状と課題を把握する

市内就労移行支援事業所の就労定着の実態調査を行う。

【取組内容】

時期	取組	内容
11月～12月	離職者とその企業に対し聞き取り	対象はみよし市内の就労移行支援事業所からの就職者とし、退職理由の仮説を立て調査項目を設定した。退職理由は、作業上の理由ではなく、それ以外の個別の課題の比重が大きいことが分かった。

④就労支援部会の在り方を検討・整理する

就労支援部会にて、意見交換を行い、方向性を検討する。詳細は下部ウのとおり。

ウ 部会での協議内容

時期	取組	内容
2月15日	第3回就労支援部会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4（2022）年度の活動報告と課題について ・みよし市の就労支援について ・今後の就労支援部会について

【詳細】

<ul style="list-style-type: none"> ・部会で意見収集し、就労支援の課題集約の対象を、障がい者に限らず検討していく方向性になった。 ・職場体験冊子について、構成の意見を基に改訂を行う。
--

・職場定着実態調査について、就労移行支援を利用しないで就職した人、就労中の人の実態が不明等の意見が出た。

エ 今後の方向性

・就労についての課題が障がいに限らず増えており、構成員からも家族の就労の問題等の課題も出たことから、障がいに限らずみよしの就労についての共有協議の場としての在り方を検討する。

・職場体験冊子を実際に活用し、職場体験の周知と受け入れを増やす取組を行う。

・就労支援部会の構成員の検討を進め、様々な視点の協議ができる場を目指す。

・障がい者雇用就労支援セミナーについて、就労支援事業に引き継ぐ。

(4) 精神保健福祉部会の事業報告、意見交換

ア 運営目的

精神保健福祉の関係機関が連携し、精神障がい者が地域で安心して生活していけるよう、支援システムを構築する。

イ 具体的な取組状況

①当事者が仲間と出会いピアサポートし合える仕組みを作る。

当事者が気軽に参加でき、つながることの意義を感じられるイベントをWGで検討し（4月から10月）、精神障がい者等サポート事業に提案する予定だったが、検討した結果、イベント開催ではなく、シエルブルーの活動の中で利用者が中心となったピアサポート活動を始めることになった。

（資料 No.4-1）

②市の精神保健福祉の課題が集約できる体制ができる。

精神障がい者等サポート事業の状況を部会に報告し意見交換を行った。

（資料 No.4-2）

③市の「ひきこもり支援」のフローと連携体制が確立する。

ひきこもり支援連絡会を発足した。

第1回は、学齢期からのひきこもりについて、みよし市教育センター「学びの森」に参加してもらい、事例をもとにグループワークを行った。第2回は、市内4つの地域包括支援センターに参加してもらい、ひきこもりに関わるケースを中心にグループワークを行った。第3回は、ひきこもりに関わる社会資源を整理した。

【取組内容】

時期	取組	内容
11月29日	ひきこもり支援連絡会（学齢期）	「不登校からひきこもりになったケース」でグループワークを行った。 （資料 No.4-3）
12月15日	エール	ひきこもり当事者が話す会を毎月開催。（場所：シエルブルー、若者の家）
1月24日	エール	ひきこもり当事者が話す会を毎月開催。（場所：シエルブルー、若者の家）
2月9日	ひきこもり支援連絡会（高齢）	包括支援センター等の支援機関と8050等の問題を共有した。 （資料 No.4-4）

2月28日	エール	ひきこもり当事者が話す会を毎月開催。(場所：シエルブルー、若者の家)
3月9日	ひきこもり支援連絡会	ひきこもり支援の資源の確認

【(参考) 参加機関】

衣浦東部保健所、学校教育課、学びの森、長寿介護課、福祉課、くらしはたらく相談センター、知立若者サポートステーション、シエルブルー、ひきこもり経験者

ウ 部会での協議内容 (資料 No.4-5、4-6)

時期	取組	内容
2月22日	第3回精神保健福祉部会	<ul style="list-style-type: none"> ピアサポートの仕組み作りについて みよし市の精神保健福祉の課題について(精神障がい者等サポート事業の報告と意見交換) みよし市ひきこもり支援連絡会の開催について

【詳細】

- ピアサポートのイベントについては、シエルブルーでの取り組みとして、ピアサポートを学ぶ自主グループ「ブルーシップ」をつくり、活動を開始し始めている。
- みよし市の精神保健福祉の課題が、しっかり出てきていないのではないかと意見が出る。
- 学校関係や包括支援センターの方々に集まっていただき、それぞれの抱える課題を話し合う機会を作ることができた。

ウ 今後の方向性

- ピアサポートを行う人を支える仕組みについて検討する。
- 昨年度出された課題の検討を始めていくとともに、課題の集約方法の検討も行う。
- ひきこもり支援連絡会を継続し、連携体制を確立する。

(5) 医療的ケアさぽーと部会の事業報告、意見交換

ア 運営目的

日常生活を営むために医療を要する状態にある児（者）（以下「医療的ケア児（者）」という。）及びその家族の住み慣れた地域での生活をサポートするために、多職種が集まり、必要なシステムや事業などを協議・検討し、具体的に実施する。

イ 具体的な取組状況

① 医療的ケア児（者）を地域に知ってもらう。

災害時のシミュレーションを行うため準備をしてきたが、対象者逝去のため中断。医療デバイスがある方がご協力いただけただため、次年度も継続して行うこととなった。

【取組内容】

時期	取組	内容
11月17日	第3回周知啓発 WG 開催	今後の報告制について検討。 (資料 No.5-1)
1月31日	対象者宅訪問	本人の状態確認（医療行為含む）と必要物品の確認。

② 医療的ケア児（者）の受入れ場所を確保し、緊急時等に備える。

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大のため、交流会を実施することはできなかった。

③ 医療的ケア児等コーディネーターWG を中心に、市内医療的ケア児者の課題整理を行う。

年4回 WG を開催。市内在住の医療的ケア児の情報共有や課題を確認することができた。また、WG を中心に研修会等開催することができた。

「医療的ケアが必要な方の情報ガイド」について、豊田市地域自立支援協議会と共に、NICU のある医療機関4カ所と愛知県医療的ケア児支援センターに周知啓発に行くことができた。

【取組内容】

時期	取組	内容
11月上旬	豊田市地域自立支援協議会と医療機関に周知啓発	藤田医科大学病院・あいち小児保健医療総合センター・八事日赤病院・トヨタ記念病院・愛知県医療的ケア

		児支援センターに豊田みよしの医療的ケアのある方の情報ガイドの周知。 (資料 No.5-2)
11月17日	第3回 医療的ケア児等 コーディネーター WG	・専門職としての動きやコーディネーターとしての動きについて。 ・市内に居住する医療的ケア児の情報共有及び課題について。 (資料 No.5-3)
2月6日	第4回 医療的ケア児等 コーディネーター WG	・コーディネーターの予算化について ・今年度WG(第1回から3回)の情報共有、課題について。 ・市内に居住する医療的ケア児の情報共有及び課題。 (資料 No.5-4)

【(参考) 医療的ケア児等コーディネーターワーキンググループ参加機関】

訪問看護ステーション mom、相談支援 OK サポート、健康推進課、福祉課、子育て支援課、キッズラバルカ(事務局)

④医療的ケア児(者)の対応可能な人材を増やし、育成するための研修会を開催する。

医療的ケア費給付事業利用者が通う2中学校の教員向けに、利用者各々の医療的ケアの知識や個別事例について研修会を開催した。また、市内事業所と市内訪問看護ステーション対象に「みよし市の仲間を知る」をテーマに研修会を開催した。(資料 No.5-5、5-6)

【取組内容】

時期	取組	内容
12月13日	部会主催研修会	『講義』 ・みよし市医療的ケア児等コーディネーターについて ・三河青い鳥医療的ケア児支援センターについて ・医療的ケア児の現状とサポート体制について 『グループディスカッション』 テーマ:「みよし市の仲間を知ろう」

ウ 部会での協議内容 (資料 No.5-7)

時期	会議	内容
2月21日	第2回 医療的ケア さぽーと部会	<ul style="list-style-type: none">・各 WG の報告と地域課題について・医療的ケア児等コーディネーターの予算化について・令和4(2022)年度の取組について報告について・事例検討

エ 今後の方向性

- ・大規模災害を想定したシミュレーションを行い、自治区や各機関等で何ができるのか、どういった協力が必要なのか、又どういった準備をしておくべきなのか明確にし、災害がいつ起きても可能なように準備をする。
- ・医療的ケア児(者)の一時的な受入れについて、市内医療機関と受入れについて前向きな話し合いが行えるよう、協議の場を設ける。
- ・市内在住の医療的ケア児(者)が抱える課題の整理と情報共有と行い、地域課題を意識し、部会に議題としてあげていく。
- ・医療的ケア児等コーディネーターを中心に、部会メンバーにも協力をいただき、各ライフステージに研修担当を構成する。